

松炭の生産（刀鍛冶使用）、里山整備

取組に至る背景・事業の目的

青木村は8割が森林であり、個人所有の山林も手入れがなされず荒廃林が目立っている。常日頃より森林整備の必要性を感じており、木材を有効資源として活用できたらと思っていたところ、長野県無形文化財の刀鍛冶である宮入法廣氏より東日本大震災を契機に松炭の入手が困難になっているとの事情をお聞きした。そこで、山の手入れで伐採した松材を刀を打つために使用する「黒炭」として活用できたらと考え、地域有志住民で山林の手入れと炭焼きを志した。

事業内容

現在、松材は建材としての活用は皆無であることから、炭窯で黒炭として加工することで有効利用を図った。また、檜等の雑木は炭を焼くための燃料として活用した。

生産規模：内径2.4m、高さ1.2mの炭窯で平成27年度は約3tの松炭を生産。(1窯約250kg×12回)

参加者：地域住民を中心に12名

整備機器：薪割機、木材運搬車、チェーンソー



【材料の薪割り】

松炭の生産は、炭窯で1週間ほど火を燃やし、その後空気を遮断して消火、冷却後に窯から取り出す。全工程はおよそ2週間である。

里山整備は主に秋から冬にかけて実施し、70本以上を間伐した。また、倒木被害等の危険がある山林の伐倒材、森林組合が里山整備で搬出した松材等も活用した。

なお、各作業にあたっては、炭焼講習会や山林作業講習等を併せて実施した。

事業効果

松炭を約3t生産し、宮入氏をはじめとする全国の4名の刀鍛冶への納入することができた。刀匠の方々からは、良い炭であるとの評価をいただいた。

里山整備の実施により、獣害被害が減少したとの地元農家からの声もあった。また、民家への倒木被害が出ていた山林の伐倒を行ったことから、山主や住民から感謝をいただいた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

倒木被害や獣害を未然に防ぐためにも、里山整備を継続して行っていく必要がある。

現在は1つの炭窯で生産しているため、1月当たり約500kgの生産が限界である。この生産量では4名分が手一杯であり、他の刀匠からも松炭の納品依頼があるため、炭窯をもう1基建造することを検討している。

今後、山、森林、木材等の自然を活用した子供たちの体験学習の場としても活用できるようにしていきたいと思う。

【選定のポイント】
松炭の需要に着目し、里山の間伐材等を品質の良い松炭として加工、販売することで、商品価値を創出した。今後、里山整備と松炭の商品化の更なる推進が期待される。

| | | | |
|-----|---------------|-------|------------|
| 団体名 | 滝山炭焼きの会（青木村） | 事業タイプ | ソフト・ハード事業 |
| 連絡先 | 青木村奈良本 764-11 | 事業費 | 4,365,786円 |
| | | 支援金額 | 2,941,000円 |